季刊 Ja-Net ジャネット

第12号
2000年1月25日発行

Ja-NetはJapanese Networkの略です。
「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ
情報誌にしたいと考えています。

スリーエーネットワーク
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
TEL 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197
E-mail ja-net@3anet.co.jp

巻頭インタビュー

# 改革期を迎えた日本語教育

日本語教育学会　会長　　水谷　修

1999年は43年間日本語教育の道を歩んできた私にとって思い出の多い年となった。ボストン、ケルン、ソウル、香港など久し振りに外国で日本語を教える人たちと話し合える機会に恵まれたのもひとつだが、その一方で、国内では大学の学部の一年生に日本語や日本語教育の講義を始めたのも厳しくて楽しい経験となった。

たしかに日本語教育の世界も、また日本語教育を取り囲む世界も大きく変わってきている。日本の国の中の、ある学校の、外国人だけを相手とする教室の中だけで仕事を続けていると教えている外国人学生の背景にあるものも見えなくなってしまう恐れもあるし、教えている日本語の背後にあるものも遠ざけていってしまう可能性がある。

1999年の４月に、名古屋外国語大学に日本語学科が新設されて新入生を迎え入れることになった。選考のための面接試験を担当して高校三年生の志望者のひとりひとりに質問をする役割を担った。

世間でもよく言われているように、最近の若い子たちはマニュアル型ではあるが実に上手に質問に応じてくれる。なぜこの学校に応募したのか、将来をどう考えているかなどといった質問にも実に手際良く答えてくる。

そのやりとりの中で期待を越えた返答があった。なぜ日本語学科を志望したのかという問いかけに対する説明で、私は高校一年生の時に、あるいは二年生の時に外国でホームステイをしていて日本のことや日本語について尋ねられて説明ができなかった。その恥ずかしさへの反省が動機になったのです、というのだ。しかも外国へ行っていて経験したことがきっかけだという生徒がひとりやふたりではなかったのである。

二、三週間の滞在という者から半年間の滞在という者まで期間は様々であったが、数多くの生徒が高校在学中に外国へ出て、そこで生活を経験し、自分の母国日本と日本語を意識する機会を持つようになっているとは想像もしていなかったのである。

大学を出てから初めて外国へ行く、あるいは日本に留学してきている外国人学生と接触するといった形ではなく、十代の半ばに外国人の世界に入りこんで外国と接し、日本のことを考える機会を作る人間は今後益々増えていくことだろう。日本語教員養成のあり方も大きな転換を求められるにちがいない。

はじめての日本語学科の学生として入ってきた学生たちの受講している授業の中に「日本語教育事情」という科目がある。日本語教

育の世界の実情や実態について紹介し日本語教育を見つめる広い目を養おうとするものだが、このクラスでも私は学生たちに教えられた。

学生たちひとりひとりに、自分の関心がある国を選ばせ、その国の日本語教育の実情を調べさせ報告させることにした。口頭による発表とレポートの提出を求めたのだが、調べていく方法に予想を越えるものが出てきた。すでに出版されている日本語教育関連の雑誌、国際交流基金の報告書など教師の方から紹介した資料に基づいたものも少なくなかったが、圧倒的に多かったのは、インターネットを使って調べた成果だった。教え手の方でも知っていない面白い情況がたくさん出てきたのは驚きでもあった。

高度情報化社会での日本語教育のあり方については、すでにさまざまな形で議論も行われ、文化庁主催の研究活動なども実施されているが、大学一年生の大半がインターネットを駆使して学習活動ができる状態になっているという現実は、あらためて日本語教育のこれからのあり方を考え直すきっかけとなった。教授手段に電子化された機器をどう利用するかといった段階の問題だけではないようだ。

日本語教育にかかわる諸制度もいま改革の時期を迎えている。現在の日本語教育の体制は、昭和60年前後に定まったものが多い。大学における日本語教員養成に関連する課程の設定のあり方を決めたのも、また民間の教員研修コースの内容を定めたのも、さらに教育能力検定試験の内容設定や実施が開始されたのもこの時期であった。外国人留学生に対する日本語能力試験の開始もほぼこの時期であった。

しかし、10数年を経て日本語教育をめぐる環境は著しく変化した。日本語学習を求める人たちの背景は多様化し、よりきめ細かい、より目的にそった教育のあり方が必要だと認識されるようになってきた。

海外における日本語学習者の数も209万を越え（国際交流基金―1998）、国内の学習者の数も増えてきている。一時期、就学生、留学生の減少で関係者は心を痛めたが、平成11年度の留学生数は55,755人となり、前年比8.7%増となっており（文部省留学生課）、長い目で見ていれば間違いなく国際化は進み、日本語教育の必要性も増えつづけていくことには疑いがない。それだけに日本語教育にかかわる諸制度をより合目的的なものに改めていくことが重要な課題なっており、しかも緊急に手を打たなければならない状況に追い込まれていると言えよう。

現在、制度の改革に手がつけられていることはいくつかあるが、最も各方面に影響を与えるであろうと思われるのは、日本の大学に留学を希望する外国人学生のための新試験の実施（平成14年度より）と日本語教員養成の見直しであろう。

留学生に対する大学入学のための試験は現在、私費統一試験と日本語能力試験が行われているが、これを一本化し、さらに海外でも実施し、来日以前に入学許可を与えてしまう形で実施しようとしているものであって、この制度が実施されれば受入れ各大学の留学生に対する日本語教育についての責任が問われることになるし、現在の予備教育に与える影響も大きい。

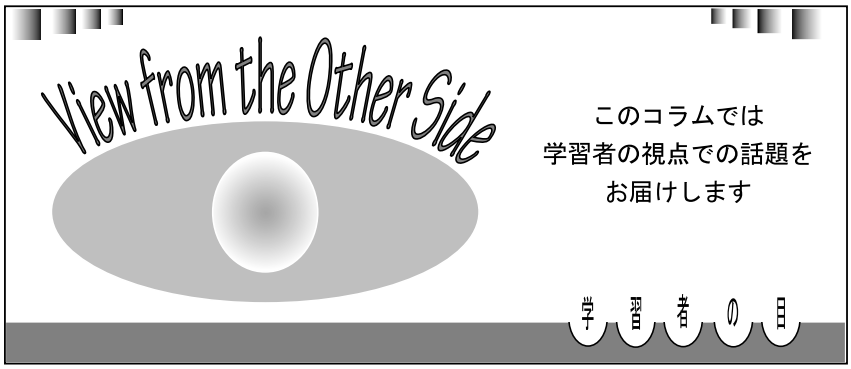
教員養成や教育能力検定試験のあり方についても、多様化する日本語教育の世界の中で求められる教師の知識、能力がどんなものでなければならないか、現在のままでは不充分であるということでは関係者の考えは一致しており、新しいあり方が用意されることは必要である。また、そうしなければならない状況にあると思われる。

課題は日本国内だけにあるわけではない。世界の国々で活躍している日本語教育の関係者とのネットワークをどう構築していくのかということもかなり緊急の課題である。

日本語は日本人だけのものではなくなった、という認識はすでに一般化してきていると思われるが、日本語教育が日本人だけのものではないという認識はまだ一般的にはなっていない。しかし、英語の国際化を支えた非英語人の貢献がどんなに大きなものであったかを考えると、日本語の普及ということだけではなく、日本語自体をより良くするためにも日本語を何十年も学習しつづける外国人日本語関係者の力を大切にし、高く評価しなければならないだろう。

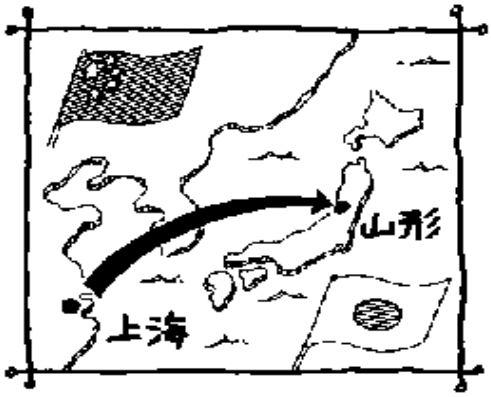
**水谷　修（みずたに・おさむ）**

**1932年愛知県生まれ。名古屋大学教育学部教育学科卒。名古屋外国語大学大学院国際コミュニケーション研究科教授、同大学国際コミュニケーション研究所所長。元国立国語研究所所長。著書に『話しことばと日本人』（創拓社）、『日本事情ハンドブック』（共著・大修館）ほか多数。**



## 国際交流サロンの職員としてできること

上海生まれの私は、社会人になってから日本語の勉強を始めました。この目的は、通訳や翻訳に関係する仕事に就きたかったからです。こつこつと日本語を勉強しながら大学の受験勉強にも励んでいました。日本語をマスターしたいと思い、日本人（今の主人）と文通したのです。数年後、結婚のため来日、学校もやむを得ず中途で辞めました。




日本語を専攻する大学を卒業していないため、日本での生活は生半可な日本語のスタートとなりました。上海大学に在学中、先生に教わった外国語を勉強するキーワードは「語学を学習するのに文法は一番肝心です。まるで建物の鉄筋部分で、基礎の鉄筋部分をしかっりと組み立てれば、煉瓦は単語の役割と同じで積めば積むほどよりよい建物ができ上がります」。先生のこの象徴的な比喩は私の勉強にかなりプラスとなりました。実際、そうに違いがありません。しかし、日本語の文法は私にとって最も難関です。如何に乗り越えるかは学習方法と努力によります。文法が分からないと文章を読めなければお話もできないですね。

私は在日外国人の語学勉強を手助けするため、山形県国際交流協会主催の、日本語指導者のための研修会に参加しました。講義では、日本語を魚に喩えて「骨と身の部分になっています。骨の部分はいわゆる文法ですね。身の部分が最初は細いですけど徐々に増やしていけば完璧な日本語が話せます」。というお話がありました。この説は私の大学時代の先生の教え、建物の鉄筋部分とレンガ部分と同じ説でした。

また、言葉というものはその国に住んでいても常に使わないとなかなか上達しません。私が知っている中国人は、日本に来て六、七年にもなるのに、会話の能力は日本に滞在した年数と違いすぎて驚きました。彼女たちは花嫁として日本に来たのですが、家族との会話は最低限の日常用語しかしゃべっていません。

或る人は日本人を相手に仕事をしていますが、系統的に日本語を習っていないせいか、単純に日本人の発音だけを真似するので、自分の言葉に変えるとどうも聞き取れない部分がかなりあります。

酒田市では、中央公民館に日本語教室が設けられていて、たくさんの外国人が利用しています。日本で生活して言葉が通じないため、苦労しながら頑張っている外国人がたくさんいます。人とコミュニケーションも取れなければ、もちろん暮らしの情報も手に入りにくいです。

交通が不便な山形では車を持たないと外出することも困難です。外国人が日本で運転免許の学科試験を受けるのはとても大変です。それでも私が指導した中国人は、自らの努力で二人合格することができました。さらに三人の学習者が免許取得のために学んでいます。

こんな厳しい環境の中で私の勤務先の国際交流サロンを利用して、ボランティアの日本人がマン・ツー・マンの形式で外国人に日本語を教えています。敬服すると同時に、これからも大いに活躍されることを期待しています。

本間江莉（ほんま・えり）
1986年に来日し、1990年日本国籍取得。現在、山形県酒田市国際交流サロン勤務。サロンを訪れる外国人に日本語指導だけではなく、生活相談も行っている。

# あちこち日本語ご紹介　国内編

## 神奈川県 横浜市

## 小さな力を寄せあって

Jパートナー　杉山広美

ボランティアグループの有志が集う「Jパートナー」が方向を模索しながら活動を始めて一年になります。

「Jパートナー」は、企業研修のために来日する外国人が、海外技術者研修協会の横浜研修センター（YKC)で日本語を学ぶとき、彼らと自由会話をするボランティアです。YKCのボランティアの登録人数は約160人と聞いていますが、その中から25人の希望者が一昨年（1998年）、YKCの日本語教師であった石沢弘子さんのご厚意による『新日本語の基礎Ⅰ、Ⅱ』を使った「日本語の教え方セミナー」を受講しました。

受講生の多くは平均年齢55歳位の主婦で、それに、年配の男性が二人。八カ月後に、教科書は50課まで終えて、石沢さん手作りの「セミナー受講修了書」を戴きました。それから、私たちも力を寄せあって、何かしようとすることになりましたが、なにをどうすればいいのか判らないのが実情でした。しかし、「失敗を直す勇気をもって第一歩を踏み出そう」と決心して、3人の世話人が知恵を絞って、いくつかの催しと毎週土曜日、YKCの食堂で在館外国人を対象に、日本語自由会話を行うなどの計画をたて、「Jパートナー」とグループ名を定め、1999年から行動を開始したのです。

昨年は「日本のお正月。豪華にひな壇を作ってひな祭り。鯉幟、金太郎、柏餅を食べて端午の節句」と、季節の行事を企画し、私たちが持ち寄ったものを着て楽しんでもらいました。

そして、毎週土曜日に行う自由会話はYKCのお力添えもあり、参加する外国人も次第に増え、ネームプレートをつけて、食堂で待つ私たちのところに「日本人と話すのは初めて」と不安げに近寄ってくる研修生とマンツーマンになったり、グループになったりして、彼らの日本語レベルに合わせて話を進めて行きます。家族、仕事、故国の事などを話すうちに少しずつ心を開き、声も段々と大きくなって対話するテーブルのあちらこちらから笑い声が聞こえます。

折紙を楽しむ研修生達

Jパートナーと石沢先生(前列左から2番目)、著者（前列右から3番目）

私が、8月から対話を続けてきた中国人はとても熱心で、毎週開始時間の2時になると、いい笑顔でやってきます。彼の本業は銀行員でコンピュータシステムの実習のため横浜から東京まで通勤していました。日本語のレベルは非常に高く、私の方が誤字を指摘されてしまうほどでした。彼は1週間の間に会社や電車の中で耳にした言葉を「～しなきゃあ、～すべき」などと「辞書にない言葉です」と質問材料をもって来ます。私も彼には日本人レベルで話題を広げ、日本の文化や中国の歴史など情報のキャッチボールを楽しみました。

そして、彼は「毎週土曜日ここで勉強できたのは幸運でした」と言葉を残して12月に帰国して行きました。

この一年間、私たちと顔なじみになった在館生が、別れを惜しんで涙で帰国するなど、色々ドラマもありましたが「自分も帰国したらこういうボランティアのグループを作りたい」と感動してくださったタイの青年の言葉は励みになり、遠く故国を離れた外国人の支えになれることが嬉しいと私たちは日頃、話し合っています。

2000年は1月3日「日本のお正月を楽しみましょう」を事始とし、一年間の活動体験を顧みて心新たに「継続する事に喜びあり」と頑張っていきたいと思っています。

海外編

# あちこち日本語ご紹介

## ポリテクニックの日本語事情

ナンヤングポリテクニック　葛朱慧
シンガポールポリテクニック　平田孝光

シンガポール

### 『みんなの日本語初級』を使って―教師の工夫

300万人口を持つシンガポールには大学が二つ、ポリテクニックは四つある。ナンヤンポリテクニックはその中の一つである。当校の外国語センターでは日本語の他にフランス語、ドイツ語も教えられ、学生がその中のどれかを必修科目として学ばなければならない。外国語科の中で日本語が一番人気があり、希望者は毎学期手におえないほどの超満員で、いつも無理やりにその中の一部の人が他の外国語科目にまわされてしまう。

日本語を取る学生は毎年1000人程で、コースは主に30時間と60時間と能力試験4級のコースの三つに分けられている。

学生は17歳ぐらいでほとんど理科系の人で、外国語を習うのは苦手な人が多いが、日本語学習をファッションの一つとして始める人が7割以上を占める。例えばきれいな洋服を着ていて、口の中でちょっとした日本語でも話せたら格好いい！あるいはT-シャツに印刷された日本語のキャッチフレーズを日本語で読めるとか、遊び半分の気持ちで日本語を取る人がほとんど。

シンガポールポリテクニックの生徒達と平田先生

ところが授業の最初の一時間目で、ひらがなだけでなくて、カタカナも、漢字も勉強しなければならないことを知ってショックを受け、多くの人がもう「おてあげ」。また、マレー系、インド系、ミャンマー、タイなどの学生はまだひらがなとカタカナをうまく読んだり書いたりできなくて苦労しているところに、また漢字も出てくると、まさに一人逃げ二人逃げになってしまう。

入門から学生に自信をつけさせ、日本語を面白く習えるようにするために、私は『みんなの日本語』の中にたくさんある絵を利用して、「パズルで単語を覚える」「書きながら話す」「走って書く」「聴解による情報交換」など色々なゲームを考えて授業中に導入した。ゲームを通して学生は短い時間で多くのものを覚え、学習の雰囲気を活性化している。　葛朱慧

＊ポリテクニック：大学に準じた、種々の専門科目を教える3年制の高等教育機関。日本の工業高等専門学校、短期大学レベルに相当する。提供されているコースも幅広く、電子情報工学、電気工学、機械製造工学、海運工学、コンピューター工学、経営学、土木建築工学、応用科学、言語コミュニケーション学部等がある。

### シンガポールと日本の懸け橋となる人材育成を目指して

当校はシンガポール初の理工学院として、1954年に設立された。日本語科は、外国語学習を奨励するシンガポール政府の方針の下、1991年7月にスタートした。日本語は第二外国語科目の一つとして位置づけられ、現在、一学年から三学年まで約800名が日本語を学んでいる。学習時間数は、週に2時間と少ないが皆、意欲的に日本語の学習に取り組んでいる。

日本と関係の深いシンガポールでは、現在、日本の若者文化が非常に流行している。Jポップやトレンディードラマの影響で日本語に興味を持つ学生が年々増えている。彼らにとって、日本語は学問というより一種のファッションに近いようで、日常生活の中に日本語や日本文化を上手に取り入れながら、そのおもしろさやカッコよさを追求している。

日本語を教える上で苦労するのは、いかに楽しく印象づけるかという点である。ひらがなの文字導入を一例に挙げよう。単調になりがちな導入や練習を印象づける方法として、①文字のカード化②筆順、類似文字を識別させる為の色分け③様々な文字定着ゲームの工夫④歌による導入法⑤クイズによる定着度の測定の5点が挙げられる。海外では日本と違って、学習時間数も学生の学習動機も極めて乏しい。限られた環境の中で何をどのくらい取り上げ、どう指導するかは、教師の尽きない悩みであると同時に、また最大の喜びでもある。

シンガポールに於ける日本語教育の意義、目的として、①日本語、日本文化の普及②知日派、親日派の養成③シンガポールと日本両国の懸け橋となる人材の育成の3点が挙げられる。

一教師としてできることには限りがあるが、今後とも、シンガポールと日本を結ぶ橋渡しの役割を地味ながらも、しっかり果たしていきたいと思っている。　平田孝光

＊昨年12月11日にシンガポールで「『新日本語の基礎』『みんなの日本語初級』の教育現場から」というセミナーを開催しました。葛朱慧先生、平田孝光先生には上記のような内容を発表していただきました。

教材紹介

# 『日本語中級J501 ── 中級から上級へ──』

──速く正確に読みたい！　論理的な文章を書きたい！　論理的に話したい！　人のための教材──

志學館大学　新内康子

「読むのに時間はかかるしポイントをおさえた読み方ができないし～、△△さんの授業では読解どうやってるぅ？」「今度中級クラスに入ってきた〇〇さんって、あんなに論理的に話せなかったっけ？　今の授業で発表をしてもらったけど、何を言いたいのかわかんなかったよ。」などなど、日本語を教える仲間どうしで、タメ息交じりの会話をなさることはありませんか。マラソンコースにたとえるなら30㎞地点にさしかかったあたりのこの段階では、日本語を教える側にとってもたいへんですけど、学ぶ側にとってはそれ以上に悩みは大きいはずです。

そういった悩みを抱える学習者のみなさんや教える方々のために作成したのがこの『日本語中級J501』です。J501…これは、中級中期修了者を対象にしたもの、つまり501時間目からの教科書を意味しています。『J501』は皆様お馴染みの『日本語中級J301－基礎から中級へ－』の続編であることは言うまでもありません。

『J501』がめざすことは、『J301』とほぼ同様、つぎの２点です。

１）自己開発能力の養成

２）「読む・書く」を柱に、「話す」能力の養成

「自己開発能力の養成」では、各テクストの読み方を学習者が発見しながら能動的な「読み」が体験できるようにするために『J301』の「文章の型」を発展・展開させて「読み方のくふう」（次頁「図１」参照）と「練習Ｂ」（ストラテジー練習）を新たに設けました。「読む・書く・話す能力の養成」のためには、『J301』よりも「書いてみよう」（次頁「図２」参照）のコーナーを拡充させ、書く内容の構成と順序を考え読み手に論理的に正確に伝わるように書く練習を増やしました。また、『J301』の「話し合ってみよう」を本書では「話してみよう」に改め、一人でするレポートの発表や会議での意見の述べ方など独話型・会議型の話す練習を増やすことによって、聞き手に論理的に正確に伝わる練習ができるようにしました。

中級からはいかに語彙力を強化するかが学習上のポイントになりますが、「ことばのネットワーク」では、練習を通して習得語彙の量的拡充を図っています。このテキストで扱う新出語彙数は約2,700語で、ちなみに『新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ』および『J301』の語彙数と合わせると約5,000語が習得できることになりますので、日本語能力試験２級語彙数に十分対応できます。

10課立てで、各課の内容は、偏見やアイデンティティーなどに関する異文化コミュニケーション、携帯電話が巻き起こしている社会問題、一日本人女性の生きざま、色彩と心理状態との関係、ほ乳類は体の大きさによって生存中の心拍数が異なるか、など多彩です。

内容の選択に当たっては、『J301』同様、学習者も教える側も読んだ後、「おもしろかった！読んで得した！」と思えるものになるように配慮しました。第９課「李良枝からの電話」は、芥川賞候補作家にもなったことがあり在日外国人として文学界で活躍中のリービ英雄の作品です。学習者も教える側も、母国や母語とは何なのかをあらためて考える機会を持つことができるでしょう。

国内の学習者の場合、周りから常時日本語が聞こえてくる環境にいますから、どちらかといえば音声から入っていくほうが得意な学習者が多いようです。ですから、たとえば、第２課「マナーもいっしょに『携帯』」では、「読むまえに」を使って携帯電話など電話の長所・短所などを話し合うことにより導入したあと、ＣＤの第２バージョン（本文どおりに読んで録音した第１バージョンのほかに、課によって会話風・モノローグ風にアレンジした第２バージョンがあります）を使ってまず聴解をさせてから読解に入るのも一つの方法でしょう。

| | | |
|---|---|---|
| 日本語中級J501 ―中級から上級へ― | 土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・石沢弘子 著 | |
| 英語版 | Ｂ５版　３６４頁 | 定価（本体2,８００円＋税） |
| 教師用マニュアル | Ｂ５版　１９０頁 | 定価（本体2,８００円＋税） |
| ＣＤ | ７４分×１巻 | 定価（本体3,４００円＋税） |

一方、海外の学習者の場合、各パートのすべての練習が終わった後、ＣＤの第１バージョンを使って音読の練習を、さらに第２バージョンで話しことば特有の表現の練習を行うといった正攻法のほうがいいかもしれません。

また、各課とは別の学習として「文法コラム」を設けました。まとめて扱うことで知識の整理に役立つと思われるものについて英語で解説を加えました。この「文法コラム」は、中上級学習者からよく出される文法上の難問を教えるにあたって、教える側が整理しておくのにも役立つでしょう。

全10課の本文の構成や語彙・文法は易から難へと配列してありますので、１課から順に授業を進めて下さい。１課あたりの時間数は15時間程度を想定していますが、クラスの状況により適宜増減して下さい。

『日本語中級J501』目次より


第１課　文化と偏見
第２課　マナーもいっしょに「携帯」
第３課　「在外」日本人
文法コラム　文脈指示のコソア
第４課　心の交流
第５課　洋服の色で知る今日のわたし
第６課　ひとしずくの水にあふれる個性
文法コラム　条件、時を表す表現（「と」、「ば」、「た」、「なら」）
第７課　夢みる恋の日記帳
第８課　法とことば
第９課　李良枝からの電話
文法コラム　文末表現
第10課　ゾウの時間ネズミの時間
文法コラム　取り立て助詞


●『日本語中級J301』各課の構成

読むまえに ..... 知識の活性化
本文
文章の型 ..... 本文の流れを図式化
Q&A ..... 内容確認
文法ノート ..... 適切な文法解説
練習 ..... 豊富な文法練習
ことばのネットワーク .. 新出語彙の練習と関連語彙の拡大
書いてみよう
話し合ってみよう ) .... 作文・口頭発表による創造性の開発

●『日本語中級J501』各課の構成

読むまえに ..... 知識の活性化
本文
読み方のくふう..... 多様な読み方の技術
Q&A ..... 内容確認
文法ノート ..... 適切な文法解説
練習A ..... 豊富な文法練習
練習B ..... 読み方のストラテジーの練習
ことばのネットワーク .. 新出語彙の練習と関連語彙の拡大
書いてみよう..... 作文による創造性の開発
話してみよう..... 口頭発表などによる創造性の開発

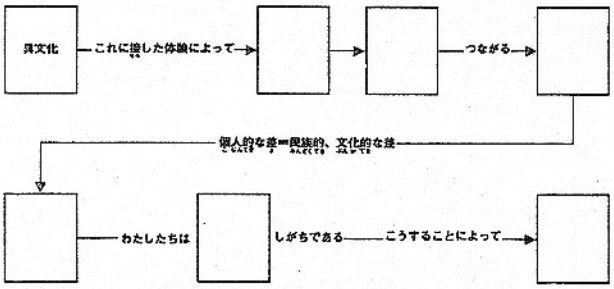
## 読み方のくふう

1 まず、1回本文を黙読しましょう。読んでみて意味のわからないことばがあったら、そのことばに印を付けましょう。今度は印の付いたことばの意味を文脈の関係で想像しながら、本文をもう一度読みましょう。それでもわからなければ、ほかの人に聞いたり、辞書で調べたりしてもかまいません。

2 この文章を理解するためのキーワードはどれでしょうか。これだと思ったものに○を付けましょう。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○異文化 | わたし | 的外れ | 外国人 | 一般化 |
| 常識的 | 文化論 | 偏見 | 体験 | 錯覚 |
| 日本人どうし | 珍しい | 相手 | 蔑視 | 遠ざける |

3 上で選んだキーワードは「異文化」を除いて６つあるはずです。それらのキーワードを文章の流れに沿って □ に書き込みましょう。




「第１課 文化と偏見」より　図１

## 書いてみよう

1 「ゾウの時間ネズミの時間」のように、ある実験や調査に基づいて書かれた文章（数式や図表も示されているもの）を図書館などで探しましょう。

2 その文章をみんなに紹介するために報告文を書きましょう。

［書き方の例］

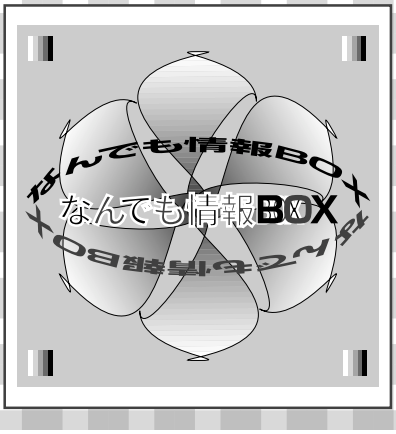
1 ＜実験や調査の内容について＞
～は～を～ために、～から～にかけて ｜ ～を使って実験されたものである。／～を対象に調査されたものである
～はその結果を～にまとめたものである。

2 ＜数式・図表の説明＞
～は～を表わし、～は～を表わしている。
これを見ると、 ｜ ～から ｜ ～がわかる。／～では ｜ ～（と）なっていることがわかる。／～では～（と）なっているが、～では～（と）なっている。

3 ＜解釈・要約＞
～ば～と ｜ いうことである。／いうことができる。／いうことが考えられる。／考えられる。
つまり、／すなわち、 ｜ ～は～ということになる。

4 ＜結論＞
以上のように、／以上のことから、 ｜ ～ということ ｜ がわかる。／ができる。／になる。

「第10課 ゾウの時間ネズミの時間」より　図２




## お便り
LETTERS

神奈川県横浜市の中村様から、前回の11号「教材紹介」で取り上げた『絵で学ぶ 擬音語・擬態語カード』について、ユニークな使い方を教えていただきました。本来、外国人学習者向けの教材ですが、ご自分の子供に見せて活用しているそうです。

絵を見て物の名前を言わせるカードや文字盤は数多くありますが、絵を見て文章を言わせるこのカードは画期的なものです。「わんわんにゃーにゃー」といった擬音語から、「のそのそ」「じろじろ」といった抽象的な表現まで含まれていますので、子供の発達に応じた加減は必要ですが、何回か遊ぶうちには文例が定着し、フラッシュカードやカルタとしても十分楽しく遊べるようになってきます。これからもいろんな言葉遊びに使おうと、子供の成長がとても楽しみです。

中村様には当社特製テレカをお送りします。ありがとうございました。

## ほん
BOOKS

『みんなの日本語』副教材が充実します

### みんなの日本語初級Ⅰ 漢字 英語版
西口光一 監修　1,800円
新矢麻紀子・古賀千世子・高田亨・御子神慶子 著

漢字と初めて出会う外国人が「楽しく、楽に、効果的に」学べるよう工夫した漢字学習書。漢字の組織性を認識し、本冊で既習の漢字語彙を学習することで学習者の負担を軽減できる。取り上げた220の漢字は日本語能力試験４級を網羅し、３級の85%をカバー。２月刊行予定。

### みんなの日本語初級Ⅰ 練習C・会話イラストシート
スリーエーネットワーク 編著　予価1,800円

『みんなの日本語初級Ⅰ 本冊』の「練習C」と「会話」の練習を効果的に行うためのイラストシート。音声テープだけでは示すことのできない会話の状況や背景をイラストで提示することにより、授業での活動に現実感を与え、練習を行いやすくできる。３月刊行予定。

### みんなの日本語初級Ⅰ 漢字カードブック
スリーエーネットワーク 編著　600円

『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字 英語版』で取り上げた漢字語彙を例文で覚えるカード集。１頁に８つの漢字語彙を載せ、裏には読み方と例文を載せた。漢字を苦手とする外国人が漢字の読み方を覚える手助けとなる教材。授業中はゲームでも使える。２月刊行予定。

### みんなの日本語初級Ⅰ 教師用指導書（仮題）
スリーエーネットワーク 編著　予価2,800円

『みんなの日本語初級Ⅰ』で教えるにあたって、何をどこまでどのように教えたらいいのか、具体例をあげながら解説したもの。各課の学習項目の文法的な解説をすると共に、具体的な導入・練習例をあげ、指導にあたっての留意点をまとめた。５月刊行予定。

### みんなの日本語初級Ⅰ 携帯用絵教材
スリーエーネットワーク 編著　予価6,000円

持ち運びに便利なＡ５サイズの絵カード。『みんなの日本語初級Ⅰ』に準拠した絵になっているため、適切な場面ですぐに使えて便利。名詞85枚、動詞158枚、形容詞49枚、会話表現28枚、計320枚で構成（白黒版）。５月刊行予定。

### 留学生のための（仮題） アカデミック・ライティング入門
二通信子・佐藤不二子 著　予価1,500円

日本の大学で学ぶ留学生が、レポートや論文など論理的な文章を日本語で書けるようになるためのテキスト。第Ⅰ部で論理的な文章を書くための基本となる文体・文法・書式などを学び、第Ⅱ部でさまざまな論理の組み立て方や文章の書き方を学ぶ。３月刊行予定。

書籍の価格は税別

## セミナー
SEMINARS

●大阪・東京
日　時　2000年2月12日（土）難波
　　2000年2月13日（日）水道橋
内　容　『みんなの日本語』教材説明会

●仙台
日　時　2000年3月25日（土）
内　容　『日本語中級Ｊ501』教材説明会

●韓国
日　時　2000年2月19日（土）仁川
　　2000年2月20日（日）釜山
内　容　日本語教科書の系譜と『みんなの日本語』

●台湾
日　時　2000年3月3日（金）～5日（日）
内　容　『みんなの日本語』の教え方ほか

＊国内セミナーの詳細はご案内のチラシをご覧下さい。また、海外セミナーの詳細は編集室までお問い合わせください。

## お知らせ
INFORMATION

ホームページのＵＲＬが変わりました。

**http://www.3anet.co.jp**
**E-mail ja-net@3anet.co.jp**

会社案内、新着情報、出版案内、近刊案内、おたよりコーナー等がございます。

Ja-Net ジャネット （季刊） 12号

皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等をお待ちしております。採用させていただいた方にはオリジナルテレフォンカードを差し上げます。
このニュースレターをご希望の方は、お名前、ご住所、所属をファックス等で編集室までお知らせ下さい。毎号無料でお届けします。（国内のみとさせて頂きます）
『Ja-Net』第13号は2000年４月25日発行予定です。

2000年1月25日発行
発行人●小川巌
発行所●（株）スリーエーネットワーク
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
Ja-Net編集室　電話 03-3292-6410　FAX 03-3292-6197
営業課　電話 03-3292-5751　FAX 03-3292-5754
http://www.3anet.co.jp　E-mail ja-net@3anet.co.jp
印刷●日本印刷（株）
© 2000 by 3A Corporation　Printed in Japan（禁無断転載）

本誌は再生紙を使用しています。